

協会だより

ひるは

2026
FEBRUARY
vol.47

レポート

第32回 群馬県老人保健施設大会

- 「みてみよう! みんなの作品」
- 施設の「ここに注目!!!」コーナー
- これ知ってました?
- 叱るのではなく、支える指導を

全老健ではROKENくんの47都道府県バージョンとなる「ご当地ROKENくん」を制作しました。群馬県バージョンは「だるま」と「焼きまんじゅう」がモチーフとなっています。「皆さん、よろしくね!!!」



GUNMA

バルセロナ グエル公園

「DXの先にある『境涯』への眼差し」

公益社団法人群馬県老人保健施設協会 理事長

服部 徳昭

令和8年を迎え、皆様におかれましては健やかに過ごしのことお慶び申し上げます。昨年、安中市にて開催いたしました「第32回群馬県老人保健施設大会」は、群馬県医師会長の須藤英仁先生を大会長に仰ぎ、「あらためて考える、老健とDX」というテーマのもと、極めて実り多い対話の場となりました。DXがもたらす効率化の光と、導入過程での課題という影を直視し、私たちが進むべき道を共有できたことは大きな収穫であります。

現在、介護報酬を上回る物価高騰や光熱費の上昇など、施設経営はかつてない逆風の中にあります。しかし、30年以上前に「中間施設」として産声を上げた老健の使命は揺らぎません。医療と介護を繋ぎ、在宅復帰を支え、そして人生の最終章におけるACP(アドバンス・ケア・プランニング)を支える。この役割は、いかにテクノロジーが進歩しようとも、人が人を支えるという本質において不変です。

ここで、人間の「境涯」について、ある「三人の友達」の寓話を引用したいと思います。

死という人生の大きな転換期に直面したとき、一人の男には三人の友達がいました。

- ・ 第一の友(財産・地位)・・・最も大切にしていたが、死出の旅には一切付いてきてくれません。
- ・ 第二の友(親族・知人)・・・墓地までは見送ってくれますが、そこでお別れです。
- ・ 第三の友(自身の行い・心の徳)・・・生前はさほど意識していなかった存在ですが、この友だけが冥土の道中も寄り添い、共に歩んでくれます。

老健施設で過ごされる高齢者の皆様は、まさに人生の深い「境涯」におられます。私たちはDXを活用して業務を効率化し、そこで生まれた「時間」を、利用者様の「第三の友」を育むため、あるいはその孤独に寄り添うために捧げるべきではないでしょうか。

「もののおはれ」を知る日本人の心根を大切にしながら、変わりゆく経営環境と変わらない人間愛の狭間で、本年も皆様と共に歩んで参りたいと存じます。

—「シンポジウム」と「特別講演」は“市民公開講座”として開催!!—

演題発表 (6会場で実施：口演発表50演題 / ポスター発表3演題)



シンポジウム (テーマ:「介護とDX」)



特別講演 (講師 今陽子様(歌手))



企業出展 (10社様) (ホールホワイエ)



また来年、
お会いしましょう

第32回群馬県老人保健施設大会

■令和7年11月15日(土) ■安中市文化センター

大会テーマ 「あらためて考える、老健とDX

～ともに考え ともに探そう 老健のちょうどいいIT～

施設職員表彰(永年116名/特別1名)



演題発表 優秀発表賞表彰(6名)



第32回老健大会を振り返って
新たな目標、DX to Human beings



介護老人保健施設めぐみ
会長 須藤 英仁

令和7年11月15日安中市文化センターで、第32回群馬県老人保健施設大会が西毛地区老健施設の皆様の協力により開催できたことあらためて感謝します。6年ぶりの対面開催となり予想以上の参加者を迎えることが出来たため逆に会場が狭くなってしまい発表者の音声も届きにくかったことは申し訳ありませんでした。各発表会場にマイク設備が必要であったこと、メイン会場でも口演発表を行うべきだったと反省しております。次期開催主催の皆さんには参考にしていただければと思います。

時間が押ししてしまいコストにまで触れることが出来なかったことは残念です。業者にも参加してもらえたシンポジウムであったので、記録だけならこの値段、記録を反映したケアプランまで作成できればこの値段など導入コストまで話題が及べばより印象に残ったと考えます。ただコストは業者によって差があまりにも大きいので公開の場所では難しかったかも知れませんが、経験上、導入コストは既存の電子カルテの規格に合わせれば安くなり、カスタマイズすればするほど高くなります。ほとんど使わない機能を入れることがコスト増につながることは申し添えたいと思います。シンポジウムでAIを用いたケアプラン作成はコスト的にも時間的にも極めて有用であるとの印象を受けました。ただワンストップですべての業務に反映できることが大きな力になると思いました。

今回のシンポジウムの結論として申したいのは、DX to Human beingsです。つまりDXはあくまでも手段であり実際の仕事はHuman beings(人間)だ、という事です。可能なDXの導入、リテラシーが完了したなら人間尊重の現場を構築し、働く人だけではなく施設利用者さんにも喜んでもらえるサービス提供こそ重要と考えます。DXはその手段であることをもう一度確認したいと思います。以上雑駁ではありますが主催者として第32回老健大会の反省といたします。

舞台準備と開場を待つ皆様



受付・案内看板 (エントランスホール)



お弁当配付準備完了



みてみよう! みんなの作品

介護老人保健施設 青梨子荘

製作活動

クリスマスツリー作り

切ったり 貼ったり
集中されています...



完成した作品の前で 記念写真♪



個々の作品も
いつも施設内に飾らせて
もらっています♪



飾る作業も一緒に
手伝っていただきました♪



老人保健施設 一羊館



沢山のありがとうが実って
優しい木になりました



霜月や
寄り添う影と
散る紅葉



花言葉：赤 華麗
ピンク 希望・感謝
黄 優美



発表演題一覧表 — 第32回群馬県老人保健施設大会 —

第32回群馬県老人保健施設大会では、口演発表50演題、ポスター発表3演題の発表がありました。日頃の業務の中で取り組んできたことを論文としてまとめ、発表いただきました。ひとつひとつの演題が毎年積み重ねられ、より良いケアに繋がってきました。

【口演発表…第2会場～第6会場 / ポスター発表…第7会場】

会場	No.	演題名	カテゴリー	施設名	発表者	会場	No.	演題名	カテゴリー	施設名	発表者
第2会場	1	通所リハビリ中に急変、適切な対応により虚血性脳血管障害超急性期治療がなされた1例 ～アルボース版早期警戒スコアの有用性～	リスクマネジメント	アルボース	清水久人	第4会場	27	老健における生成AIを活用したケアプラン作成の実践と有効性の検討 ～AIと人の協働によるケアプラン～	介護ロボット・DX・IT (ICT) 化	めぐみ	長野 司
	2	管理職として感じる人間関係と業務改善 ～動きやすい職場にするために～	業務改善と効率化	福寿苑	上野貴史		28	IT化へと1歩ずつ ～利用者ファーストを考えるIT化へ～	介護ロボット・DX・IT (ICT) 化	希望の苑	中島冬磨
	3	老健におけるインカム活用の効果と課題 ～職員連携の強化とケアの質向上を目指して～	業務改善と効率化	サンホープ 笠懸	石原弘美		29	すっごい時代だね ～IT機器を使用して思う事～	介護ロボット・DX・IT (ICT) 化	ひまわり	村山寛幸
	4	脱衣室活用方法で入浴業務の効率アップ ～探そうスペース、伝えよう情報～	業務改善と効率化	かがやき	白石美江子		30	「その人」の望む「役割」を考えて… ～LIFEの評価を多職種で行い、「心」も「身体」も整えて在宅復帰が実現した症例～	その他	ミドルホーム 富岡	松浦 薫
	5	怒りをコントロールして働きやすい職場環境へ ～無自覚な加害の撲滅を目指して～	業務改善と効率化	みずき荘	新井正明		31	その言動 大丈夫ですか? ～お互いの気持ちを考えて～	コミュニケーション	いずみの里	澤田陽子
	6	改善活動を繰り返してより良い施設へ ～業務改善検討班から生産性向上委員会へステップアップしちやいました～	業務改善と効率化	森の泉	渡辺弘子		32	高齢者と子供の世代間交流 ～高齢者と子供の笑顔～	レクリエーション	けやき苑	強矢未来
	7	介護現場における生産性向上の必要性 ～業務効率化への取り組み～	業務改善と効率化	ふじあく 光荘	田中優子		33	ここにも春がやってきた!	レクリエーション	ブランタン おおま	井上裕美子
	8	入職時オリエンテーションのDX化 ～採用面でも取組んだ生産性向上～	人材	青梨子荘	早川裕一		34	充実したレクやイベントの効果 ～利用数増加・休止率低下を目指して～	レクリエーション	おうみ	関口智子
	9	外国人職員を受け入れて ～互いの思いを今後活かして～	人材	武尊荘	田口敏治		35	自立した生活が送れるように ～生活リハの可能性～	体位保持・変換・移動等	二之沢 パナケア	原田一樹
	10	外国人スタッフ受け入れ現状と課題 ～介護の未来 国境越えて～	人材	うらく	中島尚子		36	職員のオムツ体験 ～入所者の気持ちを知る～	排泄	ウェルライフ 三愛	本多晴美
第3会場	11	口腔体操の見直し ～動画を使って楽しく口腔体操～	食事(栄養) ケア	こまち	岡野ゆかり	37	利用者の持つ力を生かした排泄支援 ～排泄支援がもたらした効果～	排泄	陽光苑	宇野充則	
	12	あんぱんが食べたい ～ミキサー食からの食形態アップ～	食事(栄養) ケア	あけぼの苑 高崎	永舂佳子	38	口腔ケアの強化に取り組んで ～歯科受診の重要性～	整容ケア等	春照苑	長井明美	
	13	多職種連携により、経管栄養から経口摂取へ移行できた1事例	食事(栄養) ケア	やまぶき	星野靖徳	39	より良い口腔管理に向けた取り組み ～歯科衛生士介入による職員の意識変化～	整容ケア等	りんどうの里	佐藤雅江	
	14	経管栄養から経口摂取への移行 ～口から食べる楽しみを取り戻すお手伝いがしたい～	食事(栄養) ケア	療養型 みさと	信澤亜寿加	40	老健施設における口腔ケアの質向上を目指して ～歯科衛生士からの指導を踏まえた実践的取り組み～	整容ケア等	せせらぎ苑	黛 理恵	
	15	経口移行加算を活用し経口摂取再獲得に向けた取り組み ～多職種連携による摂食嚥下リハビリテーション～	食事(栄養) ケア	老健 くらさわ	満島麻衣子	41	歩けるようになりたい ～通所リハビリにて、ADL、QOLの向上に繋がった症例～	全般的なケア	とね	遠藤三知佳	
	16	自分で食事を食べられるように	食事(栄養) ケア	一羊館	角田龍馬	42	「できる」ADLを「している」ADLへ ～生活場面への定着を目指して～	全般的なケア	みさと	下田健二	
	17	楽な姿勢で楽しい食事 ～座位姿勢の工夫で得られた変化～	食事(栄養) ケア	旭ヶ丘	宮永佐登美	43	職員の健康状態・介助の現状を知り新たなスライディングシートの導入 ～心地よい介護と腰痛予防・改善を目指す～	全般的なケア	あけぼの苑	柴本利朗	
	18	楽しく脳を刺激しよう ～ICTの活用～	リハビリテーション	たちばな荘	門口聖実	44	口から食べる楽しみを再び ～経管栄養・気管切開からの在宅復帰の軌跡～	全般的なケア	ビハーラ 寿苑	小川拓也	
	19	介護報酬改定に伴う入所時訪問開始 ～訪問を活かして自宅退所を目指した例～	リハビリテーション	赤城苑	佐藤竜也	45	老健でのターミナルケア ～老健施設における看取りは在宅支援でもある～	医療と看護 介護	ことりの園	長坂剛志	
	20	認知機能維持と運動意欲向上を目指して ～コグニバイクの可能性～	リハビリテーション	リハビリホーム 喜望峰	西塚啓佑	46	アドバンス・ケア・プランニング ～私たちに今出来る事は何か考えた～	医療と看護 介護	あけぼの荘	加藤明美	
第4会場	21	重度介護状態であっても、多職種連携により在宅復帰した症例 ～「家で生活したい」を実現するために～	在宅支援と地域連携・地域包括ケアシステム	ゆうあい荘	山口一幸	47	認知症の行動・心理症状 ～その背景にある思いとは?～	認知症	若宮苑	田中 惇	
	22	在宅生活では何が大変? ～家族の介護負担を軽減するために～	在宅支援と地域連携・地域包括ケアシステム	まゆ玉	並木佳奈	48	個別性を活かした関わりとケア ～認知症利用者への個別アプローチによる意欲向上と在宅復帰支援～	認知症	大誠苑	今井美伶	
	23	家族介護教室の取り組み ～やりがいとネタ切れによる苦しさ～	在宅支援と地域連携・地域包括ケアシステム	ココン	北川一馬	49	認知症の方との関わり ～「その人らしさ」を支える支援の実践～	認知症	山王ライフ	名達郁子	
	24	家で生活すること ～同職種・多職種間の連携を考える～	在宅支援と地域連携・地域包括ケアシステム	太陽	小川 溪	50	適切な対応を考える ～寄り添った対応・介助を行う為に～	認知症	さくら苑	立石万平	
	25	認知症初期集中支援チームとの連携 ～老健の強みを活かして～	在宅支援と地域連携・地域包括ケアシステム	和光園	大手真栄	51	「その対応は適切?」 ～不適切ケアの発生要因を探る～	全般的なケア	創春館	馬場史朗	
	26	いざという時のために ～事業継続計画の認知向上を目指して～	災害対策	鶴寿園	栗原良太	52	オムツからトイレへ ～トイレで排泄を～	排泄	あけぼの苑	清水稔彦	
						53	転倒リスクの「見える化」による職員意識の変容 ～大規模型デイケアにおける転倒予防対策～	リスクマネジメント	老健 くらさわ	関根 望	

群馬中央病院附属介護老人保健施設



《通所リハビリ》室内で秋を楽しむ制作を行いました♪ 少しずつ少しずつ作り、完成して壁に飾った時の皆さんの顔が達成感に満ちていました。職員も嬉しくなりました。

《2階入所》折り紙でペン立て、毛糸でヘアバンドの制作を行いました。とても丁寧に作られていました♪



《3階入所》お花紙で夕焼けのグラデーションを再現してみました。楽しく談笑しながら作りました(^_^)



介護老人保健施設 すみれの里



通所リハビリのフロアには利用者様と製作した四季折々の壁面アートが飾られています



冬の花だより～Colors of Joy～



美味しそうな干し柿ができました♪

《一般棟》色彩の花畑～Autumn Bloom～



願いを灯す冬の木～Wish Tree～



☆通り八☆



☆一般棟☆

通所リハビリ☆コースター作り



介護老人保健施設 老健くろさわ

皆で協力して作品作り
テーマは「冬」
4フロア、素敵な作品が出来ました。



どんな作品が出来るかな

皆で貼り付け作業
毎日少しずつ実施
完成までもう少し



介護老人保健施設 旭ヶ丘



可愛く鮮やかにできました!

デイサービス
群馬を代表する
「ぐんまちゃん
お花紙アート」



綺麗な作品ですね



入所1階
凱風快晴・健康長寿
「お花紙アート」



入所2階
願いを込めて
「ペットボトルキャップ
キーホルダー」



ネット手芸



旭ヶ丘リハビリ

みんなで作成したキーホルダー

施設の「ここに注目!!!」コーナー

介護老人保健施設 太陽

通所リハビリを改革しよう!

通所リハビリ支援相談員 高橋 純

太陽は平成15年に開設し、入所100床、通所リハビリ54名、訪問リハビリを実施し、運営しております。通所リハビリでは、さらなるサービスの質の向上を図り、利用者様の満足度を高めるため、利用者様にアンケートを実施しました。

そこで、あらためて利用者様がサービスを利用する目的、サービスに対する意見を集めました。結果は、利用する目的については、リハビリ、入浴のニーズが高い一方、レクや食事に対する満足度がやや低い事がわかりました。

こうした声を受け、リハビリについては、利用者様それぞれの要望に応えられるよう、短時間利用の方の受け入れを始め、より柔軟にご利用して頂ける体制を整えました。

レクについては、これまでの全体で1つの活動を行う形式を見直し、個別の要望に応えられるよう、内容を広げ、喫茶、将棋や麻雀など多数のプログラムを新たに取り入れています。

食事については、外部の食事を試験的に導入し、より変化に富んだ楽しさを感じられる食事を提供しています。

まだ改革の途中ではありますが、今後もアンケートを実施し、利用者様のニーズを把握し、より多くの方に満足してご利用していただきたいと考えています。引き続き、老健の通所リハビリとしてサービスの質の向上に努めてまいります。



介護老人保健施設 旭ヶ丘

リハビリテーションの見える化

理学療法士 蛭田 洋介

旭ヶ丘は伊勢崎市の北東部に位置しており、みどり市に隣接しています。北方面に目を向けますと上毛カルタにあるように裾野の長い赤城山を眺めることができます。

開設は平成11年であり、今年で26年目を迎えます。入所定員100名（ショートステイ含む）、通所リハビリ定員55名、訪問リハビリ、グループホーム、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターを運営しております。入所では「超強化型」を算定しており、在宅復帰や地域活動に力を入れております。

旭ヶ丘の通所リハビリでは、利用者様のリハビリの効果や現在の体の状態を把握するために半年に1回 InBody（体成分分析装置）を使用し筋肉量などを測定しています。体成分分析装置では全身の筋肉量や体脂肪量だけでなく、部位別に筋肉量や脂肪量が表示されたり、筋肉均衡状態や栄養状態についても表示されます。

それにより利用者様は自分のどこに筋肉がついているか、筋肉のついているバランスはどうか、栄養は不足していないか、前回の結果と比較してリハビリの効果は出ているかなど知ることができます。またリハビリスタッフもその結果を参考に不足している部分（運動だけでなく栄養面も）でアドバイスや実際のプログラムの立案の参考にすることができます。

数値としてははっきりと示されますので、利用者様からは分かりやすく良いと言ってもらえることもあります。

旭ヶ丘ではこれからも利用者様の身体状況の把握に努め、元気で生活できる身体作りのリハビリを提供していきます。



介護老人保健施設 みさと

笑顔で過ごす毎日を!!

介護副主任 佐原 智津子

介護老人保健施設みさと（入所定員50名）は、榛名山麓ののどかな場所に位置する施設です。新型コロナ以降の制限が多い生活の中で、少しでも入所者の皆様が楽しめるよう心掛けています。

毎年秋にご家族も招待し、「みずほ祭り」を開催。ボランティアの方々による和太鼓などの出し物に、皆様大変喜ばれています。また、年始にはお参りセットを準備し、初詣気分を味わっていただいています。

皆様が制作した作品は居室や施設内に飾られています。居室名になっている花の折り紙を飾ることで華やかさを添えるだけでなく、居室を示す目安にもなっています。

今後も皆さんが笑顔で毎日を送れるように、工夫して取り組んでいきたいと思ひます。



介護老人保健施設 銀玲

利用者様とご家族の安心を目指して ～感染予防の観点から～

総合マネージャー（看護師） 中島 都

銀玲は渋川市に所在し、地域の高齢者を対象に介護予防の段階から人生の終焉に至るまで幅広いケアを提供しています。

昨年夏（2025年）、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、利用者様とご家族様さらには地域の皆様に大変なご心配をおかけしましたことを、心よりお詫び申し上げます。私たち役職員一同は、同様の事態を繰り返さないよう日々の手洗いや換気を徹底し、感染対策に努めております。

近隣では面会制限を行わない施設も増えておりますが、銀玲ではご利用者様とご家族様が安心して面会できるよう、面会場所にパーティションを設置し、定期的な換気を行うなど、安全な環境づくりに取り組んでいます。

さらに、11月には外部講師を招き、感染症に関する勉強会を開催しました。研修では、コップに水を入れて乾杯をする場面を用い、どのように感染が拡大するかを体験的に学ぶことで、職員の感染予防意識を高めました。また、ケアスタッフ全員がアルコール消毒を携帯できる体制を整え、「感染源を持ち込まない・拡げない」という意識を共有しながら日々の業務に取り組んでいます。

私たちは、様々な感染症が流行する状況においても利用者様が安心して暮らし、ご家族との時間を充実して過ごしていただける施設であるようにこれからも努力してまいります。



これ知ってました？

これまで3回に渡り、認知症に対する基礎的な知識についてお話しさせていただきました。今回は私の介護体験を紹介させていただきます。少しでも認知症介護、特に自宅で介護に携わっている方のお役に立てれば幸いです。

介護老人保健施設 和光園 副施設長
認知症看護認定看護師 狩野 京子 先生



私の母はレビー小体型認知症を発症し、約3年間自宅で介護をしました。最初に異変に気付いたのは平成30年8月、実家に帰った時の事です。

テーブルの上のTVのリモコンが見当たらず、母の布団の枕元にありました。

私「今朝、リモコンがなくて探したよ〜」

母「夜中にどこかの子供がTVをつけて見ててさ… 顔の半分がケロイドみたいになっててかわいそうでさ。夜中にTVつけられても困るし、リモコンをこっちに持ってきておいたんだよ。」



見えないものが母にとっては本物のように見えているようですが、それ以外は普段と変わった様子はなく、「リアルな幻視・認知機能は比較的保たれている」といった典型的なレビー小体型認知症の症状でした。

他にも…

実家に帰ると、浴室に小さな南京錠がついている



父に聞くと「知らない人が勝手にお風呂に入るからどうかして」と言われたとのこと。柔軟な対応をしている父に感心しました。

アパートにいる私に夜遅く電話が来る



「お父さんがこんな時間に出て行っちゃった。女の人と踊る集まりらしいんだよ…」父はこの時隣で寝ていました。

母にとっては「現実のこと」なので、困った顔で真剣に訴えます。自分が専門職で認知症を理解していても、身内が変化していく様子を目の当たりにするのは何とも言えない気持ちでした。家族や周りの人達には冷静を装っていましたが、内心は戸惑いと淋しさ、不安が常にありました。

父は責め立てられたり拒否されることも多く、私が思っている以上に疲弊していたようです。特に精神的な疲労が多く、車の運転中に自損事故を2回起こしたと後から聞きました。



令和2年の夏頃になると、幻視以外の症状も目立ってくる

- 携帯電話が使えなくなる、料理がごく簡単なものしかできなくなる、服薬管理ができなくなる、転倒が多くなる
- トイレには行くが失禁もあり、紙パンツを使い始める



介護が必要な場面が増え、介護サービスの利用を考えましたが、本人の拒否があり自宅での介護を続けました。父は高齢ですが車の運転ができ健康だったこと、近くに住む兄の協力を得られたことで自宅での介護が成り立っていたのだと思います。私も頻回に実家に帰り、食事の準備や入浴、着替えの手伝い等を行いました。

令和3年の春頃には家族の認識も曖昧になり、全面的に介護が必要になる

- 夜中に目を覚まして起き出しているのに布団まで連れていきますが、暫くするとまた起き出すといったことを朝まで繰り返す日もあり、常に睡眠不足の状態です。仕事に向かう日が続きました。私のことを「親切な人が色々手伝ってくれる」と言ったり、父と話しながら「私の夫がね…」と言ったり、家族の認識ができなくなってきました。

それでも、食事を運ぶのを手伝ったり、家を出る時に「気を付けて」と言ってくれたり、そういった一面を時々でも見られることが嬉しく、介護を続ける原動力になっていたと思います。

令和3年6月に体調を崩し施設入所、令和4年12月永眠

- 嘔吐・発熱後より動くことが困難となってしまう、施設に入所しました。その後は穏やかに過ごし、令和4年12月に永眠しました。

入所当初はほっとした反面、大変で騒がしい日々が懐かしくも思え、家の中が静かなことが少し淋しく感じました。施設では専門職の皆さんに手厚く介護をして頂き、最期まで穏やかに過ごせたことに感謝しています。



家族の介護を振り返って

- 自分が専門職であっても、身内が変化していく様子を受け入れるまでに時間がかかりました。認知症は誰でも発症する可能性がある、他の病気と同じ、と考えると少し前向きになれました。
- 自分は介護に関係する職種なので介護保険の申請やサービスの利用等の手順が分かりますが、いざという時に困る方もいるかもしれないと思いました。(そのような時は地域包括支援センターへ相談すると良いでしょう)

家族の介護は常に戸惑いや不安、疲弊がありながらも無理をしてしまう状況になりがちです。個々の生活環境等もあり「こうすると良い」とは一概には言えませんが、自分なりの“ガス抜き”をして心身の疲れをため込まないことが大事だと思います。

叱るのではなく、支える指導を —「お・ひ・た・し」で人が育つ職場へ—

介護現場では、日々さまざまな判断と対応が求められます。忙しさのなかで、つい「なんでそんなことをしたの?」「また忘れたの?」と強い口調になってしまうこともあります。けれども、叱ることが必ずしも指導とは限りません。むしろ、相手の成長を願うなら、「叱る」よりも「支える」関わりが必要です。指導の基本姿勢として意識したいのが、「お・ひ・た・し」という4つのキーワードです。それは——

お 怒らない **ひ** 否定しない
た 助ける **し** 指示(支援)する

「怒らない」——感情ではなく、事実で伝える

指導場面では、感情的になってしまおうと相手の心は閉じてしまいます。怒ることは「瞬で伝わりますが、納得は生まれません。大切なのは、「何が問題だったのか」「どうすればよかったのか」を、感情を交えずに事実として伝えることです。

たとえば「なんで報告が遅れたの?」ではなく、「報告が遅れると対応が後手になってしまうから、今後は終わった直後に伝えてね」と、次の行動につながる伝え方を心がけましょう。

「否定しない」——まず受け止め、理解する

新人や若手が失敗したとき、頭ごなしに否定することは簡単ですが、それでは次の行動が怖くなります。

「そう思った理由を教えてください」「その方法を選んだ場面を具体的に振り返って」と相手の考えを聴く姿勢を持つことが大切です。理解しよとする姿勢そのものが、職員の内感を育てます。否定ではなく「なるほど、そう考えたんだね」と受け止めた上で、改善点を一緒に考えることが、信頼関係を深める第一歩です。

「助ける」——できない理由を探さず、できる方法を探す

現場では「やっていない」「覚えていない」といった言葉が出がちですが、背景には「どうしたらできるか分からない」「自信がない」「教えてもらっていることが人によって違うからどっちをすればいいか悩んでしまっ」というような不安があります。

そんなときこそ、「じゃあ一緒にやってみよう」「このやり方ならできそうかな」と、助ける姿勢で寄り添うことが求められます。助けるとは、甘やかすことではありません。相手の可能性を信じて、できる環境を整えることです。

「指示(支援)する」——次の行動を明確に伝える

叱る代わりに必要なのが、「次にどうすればよいか」を具体的に伝えることです。

「気をつけてね」ではなく、「次からは〇〇の前に確認してね」「報告は〇時までにとめよう」など、行動がイメージできる言葉で伝えると、本人もすぐに実行に移せます。これは「指示する」というより「支援する」行為です。リーダーは相手が動きやすいように道筋を照らす、伴走者のような存在なのです。

指導の目的は「できていないことを責める」ことではなく、「できるようになるまで支える」ことです。叱らなくても人は育ちます。むしろ、支えられた経験が、その人を将来「支える側」に変えていきます。

職場での何気ない声かけひとつが、人を伸ばすきっかけになります。

「お・ひ・た・し」を合言葉に、怒るよりも、支え合う職場づくりを進めていきましょう。

医療法人大誠会

介護老人保健施設 大誠苑 統括介護部長

黒木勝紀



▶群馬県老人保健施設協会では、協会広報誌「ひろば」に掲載する情報など、介護老人保健施設に関する情報をご提供・ご案内させていただくため、メールアドレスのご登録をお願いしております。
▶情報提供をご希望される場合は、QRコードから登録フォームにアクセスして、施設名、メールアドレスなど必要事項をご入力ください。

メールアドレス
ご登録のご案内

協会・事務局コーナー

■協会行事予定(令和8年度)

5月

13日(水) 代表委員会(オンライン)
20日(水) 通常理事会

6月

17日(水) 臨時理事会
17日(水) 定時総会

8月

協会だより「ひろば」Vol.48「発行予定

9月

老健くんま(Vol.29)発行予定

10月

14日(水) 代表委員会(オンライン)
22日(木)・23日(金) 全老健栃木大会

11月

18日(水) 通常理事会
28日(土) 群馬県老人保健施設大会

令和9年 2月

17日(水) 代表委員会(オンライン)
24日(水) 臨時理事会

令和9年 3月

17日(水) 臨時理事会
17日(水) 臨時総会

あとなぎ

S

季節の変わり目なので、どうぞご自愛ください。

N

手洗い・うがいを行い、感染対策にとめましょう。

H

インフルエンザや胃腸炎が流行していますが、体調を整えて新年度に向けて頑張ってください。